

# 宮城県内の看護職による事業所・ 行政・大学のネットワーク構築と その成果に関する研究

主任研究者 宮城産業保健推進センター前所長 安田恒人

共同研究者 福嶋嘉子, 安齋由貴子 (宮城産業保健推進センター相談員)

酒井太一 (久留米大学医学部看護学科)

佐々木久美子, 佐藤憲子, 高野英恵 (宮城大学看護学部)

# 研究の背景・目的

- 背景：前年度の調査研究において、事業所における産業看護職の配置が生活習慣病予防対策に有効であることを明らかにした。一方で、産業看護職の多くは少人数配置の現状にあるという課題も明らかにした。
- 目的：宮城県内の事業所に所属する産業看護職を対象に2つの調査を行い、今後の支援体制構築への一助とすることを目的とした。

# 調査の目的

- **調査1: 産業看護職支援ニーズ調査**

産業看護職がどのような支援を必要としているのかを明らかにする

- **調査2: 産業看護職によるネットワーク構築に関する調査**

産業看護職によるネットワーク構築の取り組みを開始し、その評価を試みる

# < 調査1 > 方法

- 宮城産業保健推進センターが把握している  
県内の産業看護職 254名
- 自記式質問紙を郵送(2007年9~10月)



回収数 58件 (回収率22.8%)

# < 調査1 > 方法

- 調査内容:

基本属性

(職種、年齢、経験年数、看護職数)

必要としている支援

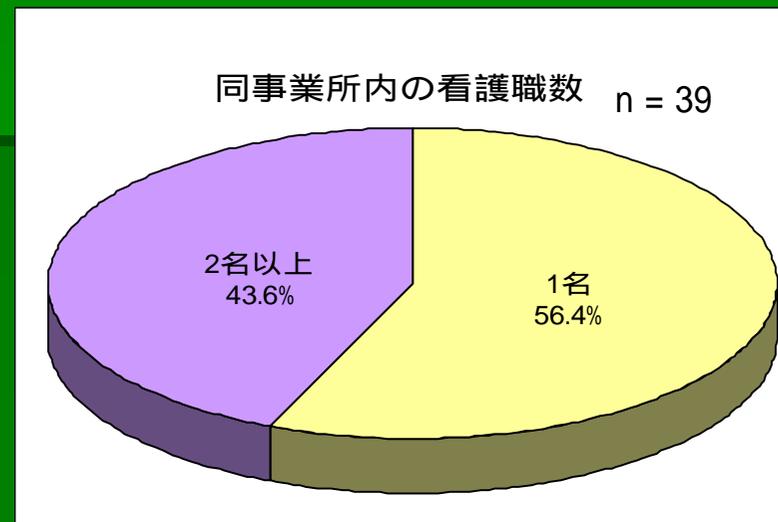
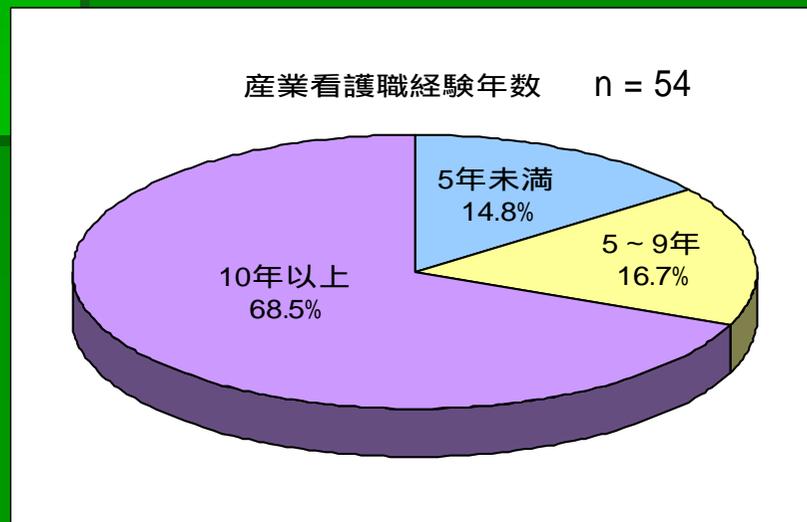
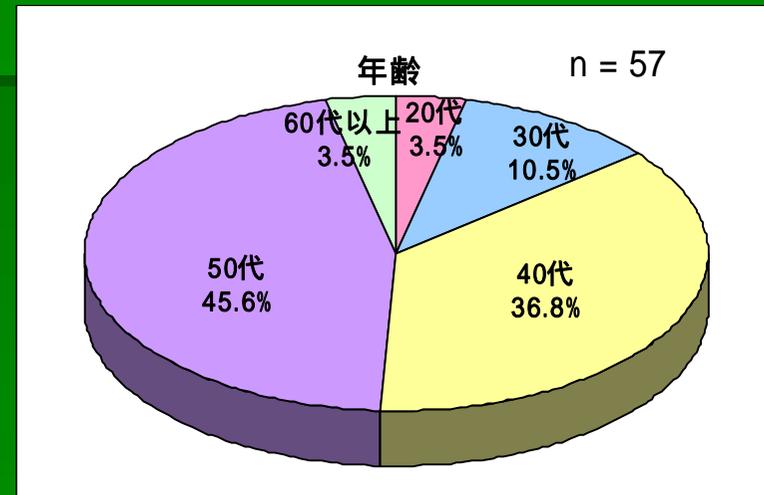
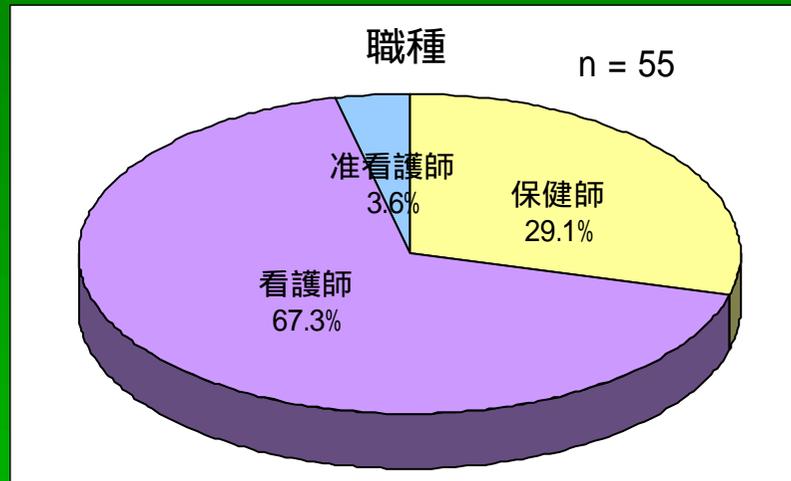
(支援のタイプ、相談相手、知識・情報の入手方法)

- 倫理的配慮:

個人情報 の 厳重 な 管理、回答 の 可否 による 不利益 が 生じ ない こと の 保障、分析 後 の データ の 破棄 について 文書 で 説明 した。また、調査 票 の 返送 を もって 同意 を 得 た もの と した。

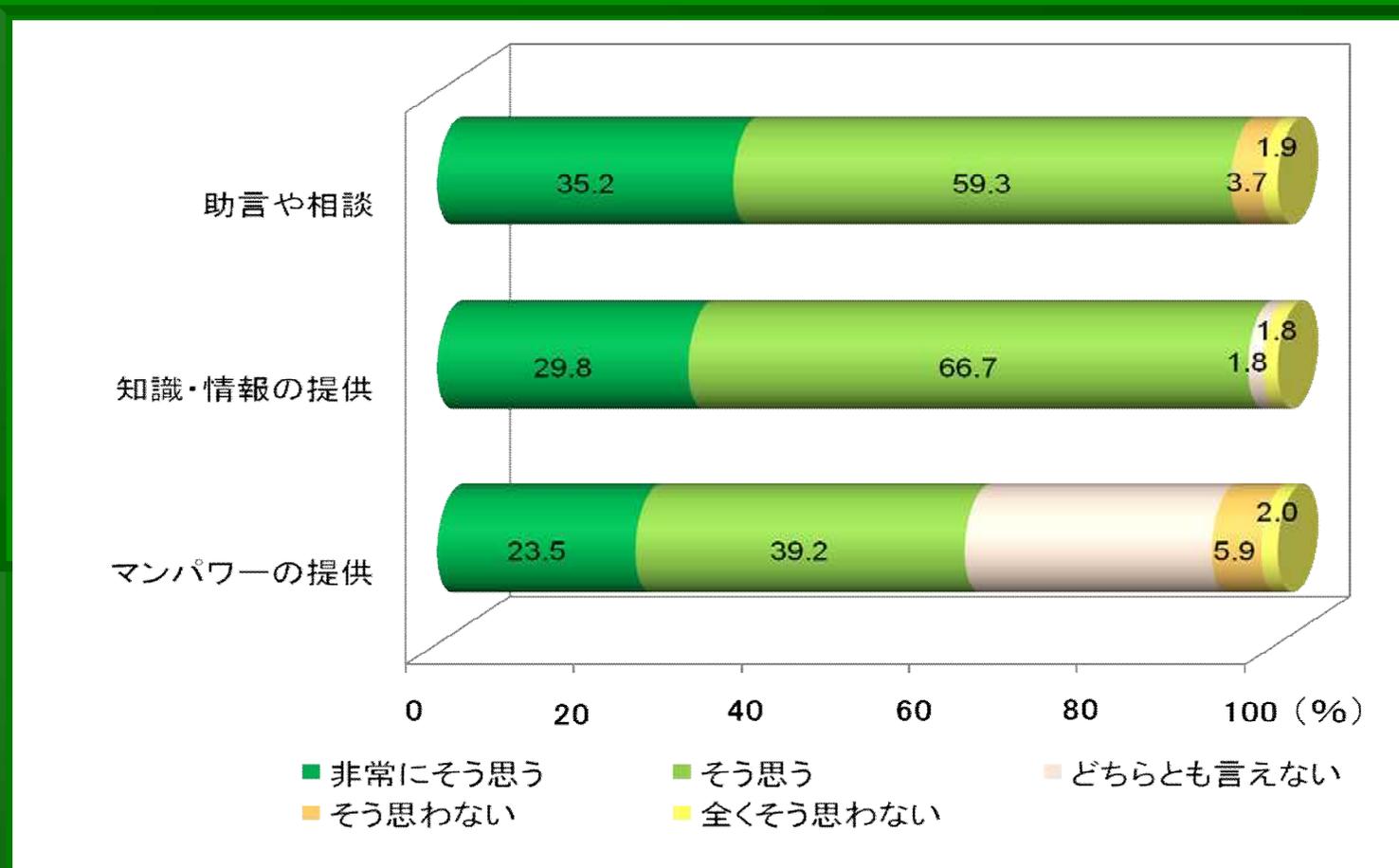
# < 調査1 > 結果

# 基本属性

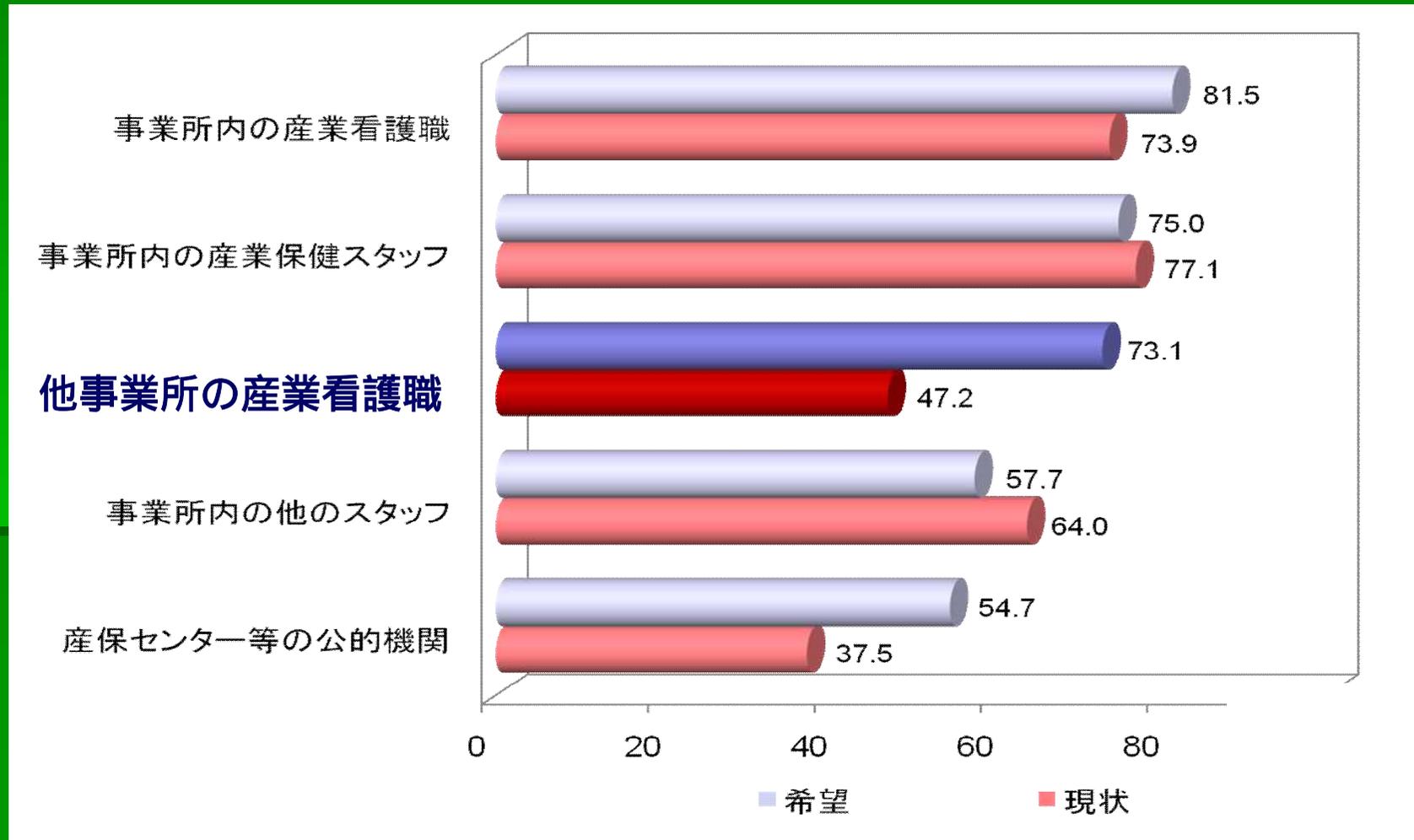


# < 調査1 > 結果 支援のタイプ

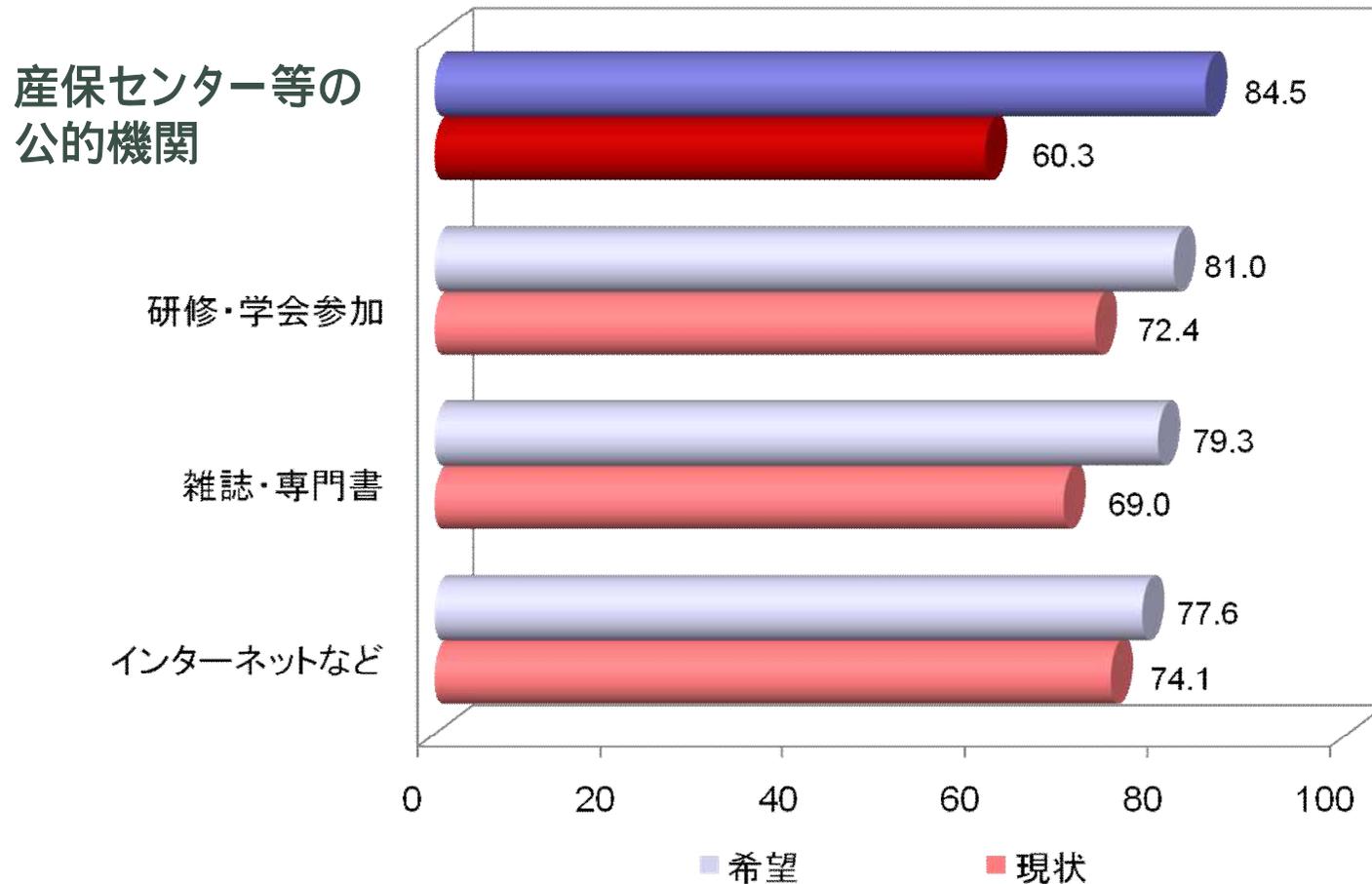
## 必要としている



# < 調査1 > 結果 困った時の相談相手『希望』と『現状』



# < 調査1 > 結果 知識・情報の 入手方法『希望』と『現状』



# < 調査1 > 考察

## ■ 産業看護職同士によるネットワーク体制構築のニーズ

1名配置が6割を占め、身近な同職種に助言や相談を仰ぐことは困難な状況に置かれている。

困った時の相談相手では、「他事業所の産業看護職」で、希望と現状の差が大きかった。

今後は、産業看護職間で相互支援ができるネットワーク体制の構築が必要である。

# < 調査1 > 考察

## ■ 知識・情報の発信拠点としての産業保健推進センターへの期待

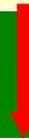
産業保健推進センター等の公的機関は、知識や情報の入手先として最も多く希望されていたが、その利用は6割であり、希望と現状の差が大きかった。

今後は、産業看護職の期待に応じられるよう、環境整備を進めていくことが必要である。

## < 調査2 > 方法

- ネットワークへの参加募集についての文書を郵送  
(調査1の調査票送付時に同封した)

希望者28名



- ネットワーク構築を目的とした研修会の案内文書を郵送

参加者15名



- 研修会終了後に自記式質問紙の記載を依頼  
回収数14件(回収率93.3%)

# < 調査2 > 方法

- 調査内容:

  - 基本属性

  - (職種、年齢、経験年数等)

  - 自由記載

  - (ネットワークへの参加動機と感想)

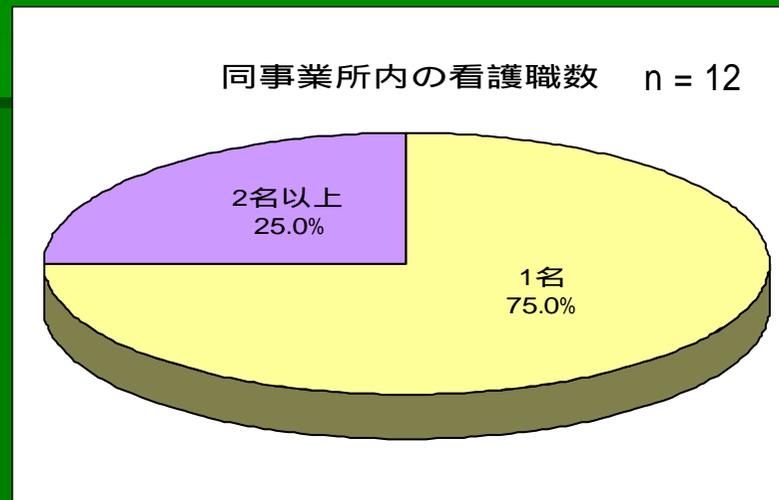
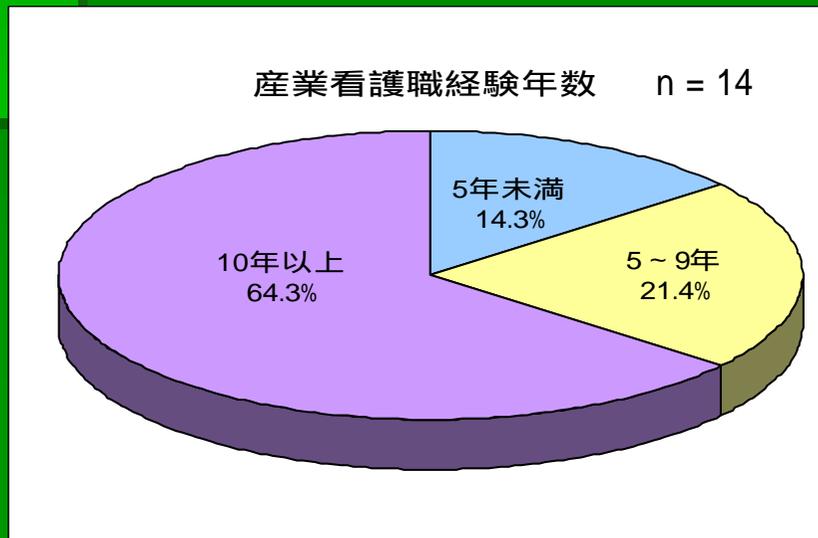
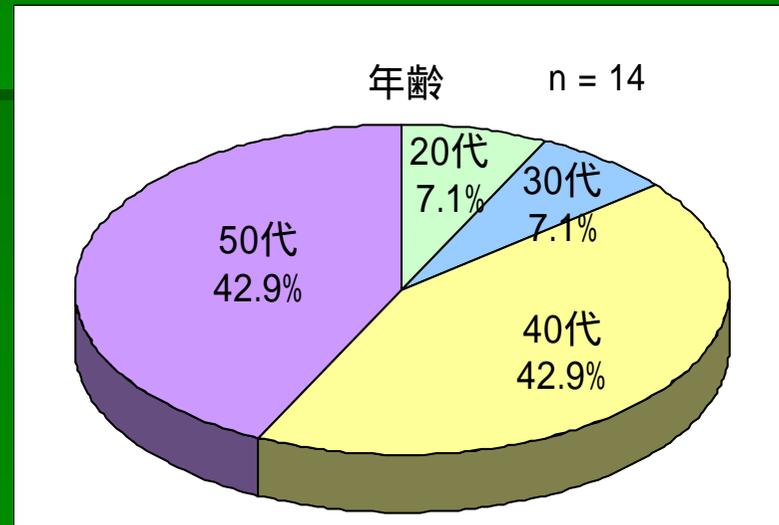
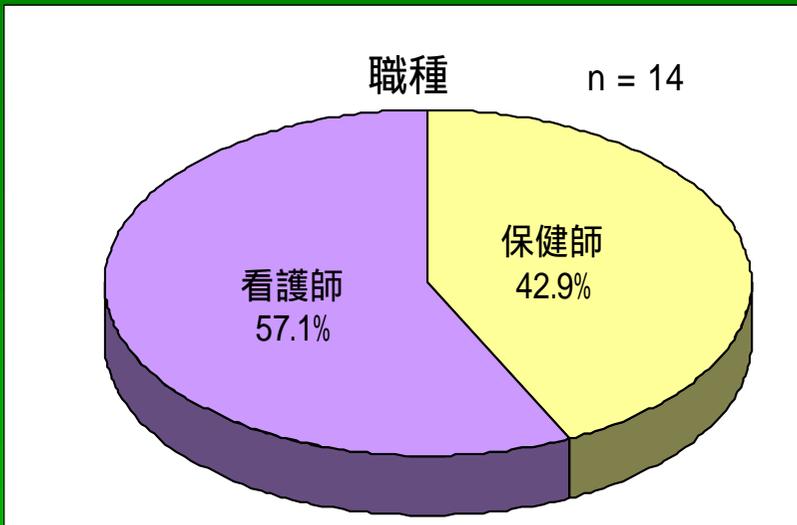
自由記載の内容は質的分析を行い、類似・共通したデータをまとめカテゴリー化した。

- 倫理的配慮:

個人情報 の 厳重 な 管理、回答の可否による不利益が生じないことの保障、分析後のデータの破棄について説明した。また、調査票の提出をもって同意を得たものとした。

# < 調査2 > 結果

# 基本属性



# < 調査2 > 結果

## ネットワークへの参加動機

- 産業看護職の仲間をつくりたい
- 情報収集及び情報交換をしたい
- 資質向上のきっかけにしたい
- 職務上の責務として参加した

# < 調査2 > 結果

## ネットワークへ参加した感想

- 仲間づくりができそう
- 情報収集及び情報交換ができて良かった
- 元気付けられた

## < 調査2 > 考察

### ■ 産業看護職にとってのネットワーク構築の有効性

ネットワークへの参加者は、いずれも少人数配置の職場におり、仲間づくりや交流を希望していた。

実際にネットワークに参加することによって、仲間づくりの手ごたえや情報収集及び情報交換の機会を得ていた。

また、交流を通じて元気付けられるなど、エンパワメントされていた。

### ■ 全ての過程を産業看護職と共に段階的に進めたことによって、ネットワーク構築が円滑に開始された

# 今後の取り組み

- 本調査から得られた知見を基に、ネットワークを拡大すると共に、具体的で持続可能な取り組みを検討していきたい。
- 検討にあたっては、県内の産業看護職、行政や大学との連携を活かしながら、行っていく予定である。